



広島ホームテレビ総合編成局アナウンス部長 伊藤みのり

Profile

昭和56年竹原高校卒業、竹原市生まれ。賀茂川中学校を卒業後、竹原高校へ入学。広島修道大学を経て、広島ホームテレビへ入社。

主要な担当番組は、「あっぱれ！熟年ファイターズ」等。

◀ 伊藤みのりさんと竹原高校生徒会長・副会長

(左から、伊藤みのりさん、生徒会副会長の半田月姫さん、生徒会長の半田健太郎君。共に賀茂川中学校出身。)

「竹原高校に行って良かったと思う事はありますか？」
1年生から3年生までみんな仲が良く、先輩方からは色々教えて頂きました。

● 夢への第一歩

1年生の時、放送部の前を通ったら、とてもきれいな音で曲が流れていて、その音にすごく感動し放送部に入学しました。ちょうどその頃家のステレオが壊れていたんです。そして、放送部の先輩から勧められて(NHKの)県内の放送コンクールにエントリーし、先輩と国語の先生方からご指導を頂き朗読部門で入賞することができました。これが自信に繋がりと、アナウンサーを目指す一つのきっかけになりました。

― 後輩へのメッセージ ―

どんな小さなことでもいいので、目標を持って、一日一日を大切に過ごして欲しいと思います。

私のように失敗ばかりでも、夢を持ち続けられればいつか夢に近づける時が来るのかな…と、思ってもらえたら嬉しいです。

竹原高校生徒会長・副会長インタビュー

活躍する竹高卒業生

先輩から元気をもらい地域の学校“竹高”の良さを再発見できました

長崎大学熱帯医学研究所 国際保健学分野主任

山本 太郎

Profile

昭和57年竹原高校卒業、竹原市生まれ。忠海中学校を卒業後、竹原高校へ入学。平成2年長崎大学医学部卒業。京都大学大学院医学研究科助教授、外務省国際協力局勤務を経て、平成19年より現職。アフリカ、ハイチなどで感染症対策に従事。著書に『抗生物質と人間』『新型インフルエンザ 世界がふるえる日』『感染症と文明』など。

山本太郎先生。大学での講義の様子 ▶



「竹原高校に行って良かったことはありますか？」

そうですね、自分の「根っこ」があるというか。生まれ育った町の、そこにある学校へ行って…。世の中へ出るまでの間を、まるで「母親の胎内にいるような穏やかな環境で過ごせた」という幸せを感じることができました。竹高は、そんな穏やかさを備えていました。

― 高校の時の将来の夢は何ですか？ ―

自分が何者で、何になりたいのか、なれるのか、そんなことは全く分からない時期でした。それは大学を卒業し、研究者の道を歩み始めた時、そして三〇代の後半まで続いたように思います。

● 「高校生」時代を大切に

振り返ると、当時感じていたことはずいぶん贅沢だったなという気がします。「無名であること。貧しいこと。若いこと」何かを為すために必要なことだとは誰の言葉だったか。でも、高校時代にはその全てがあったわけです。何かをなしたか否かは別として。

― 後輩へのメッセージ ―
頑張ってください！

来てよかった竹高 行かせてよかった竹高 わが町の竹原高校

広島県立竹原高等学校

作成 西岡 慶保 (竹原高校 3年)

